



中川八郎の作品の前で思いを語る横田さん

創業100周年の酒店で新たな取り組み 内子の文化と酒の薫り漂う企画展第1弾

新装開店した横田酒店にある「ギャラリー創是^{そうげ}」で10月1～18日の間、こけら落とし記念展「内子の薫り」が開かれました。没後100年を迎えた画家・中川八郎^{はちろう}など、内子町にゆかりのある作品52点を展示した店主の横田光敏^{みつとし}さんは、「町内の学校や個人が所有のもので、協力に感謝。内子出身の偉人の顕彰と伝承につなげるため、今後も同様の展示会を続けたい」と意欲的でした。



今も昔も変わらない舞に地域の人々も安堵していた

3年ぶりに境内に響いた獅子舞ばやし 大瀬地区で炷森三島神社秋祭り

大瀬地区の秋祭りは10月15日、炷森三島神社^{とぼしがもり}で行われました。神輿^{みこし}などは中止でしたが、獅子舞が3年ぶりに奉納されました。昭和8年から続く大久保獅子舞保存会によるもので、激しく獅子頭を振り続ける姿に大きな拍手が送られていました。10月は町内の各地で秋祭りが開かれ、五穀豊穡を祝います。各地域で対応はさまざまですが、久しぶりの祭りにたくさんの笑顔が見られたようです。



「昔の伊予銀行だ」などと映像が変わるたびに声上がる

鮮やかによみがえる昭和30年代の記憶 佐野梅太郎氏が残したフィルム上映会

「家の記憶—古写真—」展の関連イベントとして「昔のフィルム上映会」が10月16日、歴史民俗資料館で開かれました。映像は佐野梅太郎氏が昭和30～40年代に8ミリカメラで撮影したもので、今では貴重な資料です。笹まつりや秋祭り、結婚式、新盆など、生き生きとした暮らしぶりが映し出されると、来場者は口々に「懐かしい」と喜びながら、当時の思い出をよみがえらせているようでした。



土俵際で粘りの相撲を見せて会場を沸かす

白熱の取組に大きな拍手 子どもたちが全力でぶつかる相撲大会

「第3回四国小学生相撲クラブ選手権」(南予相撲クラブ協議会主催・泉清一^{せいいち}会長)が10月16日、知清河原・内子町相撲道場で開かれ、南予5地域から16クラブ・115人が参加しました。内子町からは団体戦に4チーム、個人戦に15人が出場。好勝負が続く、団体戦では低学年の2チームが決勝トーナメントに出場、個人では大野真優^{まゆ}さんが準優勝するなど、好成績を収めました。

秋の実りに笑顔がホックホク 園児たちがサツマイモの収穫体験

内子幼稚園の「芋ほり体験」が10月4日、菖蒲集会所近くの久保忠節^{なかつか}さんの畑で行われました。園児たちに収穫の喜びを感じてほしいと毎年開催し、今年は14人が参加。スコップや手で土を掘り、コンテナ3杯分のサツマイモを採りました。久保さんは「みんなの元気な姿を見るのが楽しみ。農業の楽しさも知ってほしい」とにっこり。サツマイモは園でふかし芋などにして食べるそうです。



「いっぱい採れたよ」と笑顔がはじける園児たち

夢中に楽しむ文化の秋、芸術の秋！ 内子の伝統と文化を子どもたちが体験

「内子町こども文化体験教室」(内子町文化協会主催)が10月8日、内子町共生館で開かれました。シルクスクリーン版画や茶の湯、剣詩舞体験など8つの教室が開かれ、多くの親子連れでにぎわいました。生け花を教えた華道池房会の野中恵美子^{けいこ}さんは「子どもたちは直感的にどんどん生けるので見ていて楽しい。生け花の魅力を知ってもらえるいい機会」と喜びました。



真剣なまなざしで生け花に挑戦中

新たな作品が生まれる新たな場所 新装した「天神館」で恒例の「和紙創作展」

和紙の魅力と可能性を伝えようと「第18回和紙創作展」(内子町商工会界隈づくり委員会主催)が10月8・9の両日に開かれました。3年ぶりの創作展は、新装した天神産紙工場の倉庫「天神館」とみそぎの里の2会場となり、出品者も品数も増えました。和紙で太鼓などの楽器を制作した大森陸雄^{りくお}さんは「創作意欲がわく展示会。長年続けているからこそ生まれる作品がある」と思いを語りました。



ワークショップなどもあり、にぎわう会場

内子町で行われる貴重な林業研修 県外7人が住んで学んだ2週間——

林家の仕事と内子暮らしを体験する林業研修「ムラ暮らしインターン」((-社)九州のムラ主催)が10月3～16日の間、小田地域で行われました。参加者7人は県外在住。林業を学ぶ機会は少ないそうで、「貴重な体験ができた」と口をそろえます。大学生の平川結貴^{ゆきき}さん=大阪府=は「持続可能な林業のあり方を、現地で体験して考えたかった。自伐林家^{ただよし}さんの話はとても勉強になった」と目を輝かせました。

酒井忠義^{ただよし}さん(右)らが研修生に林家の仕事を教えた